

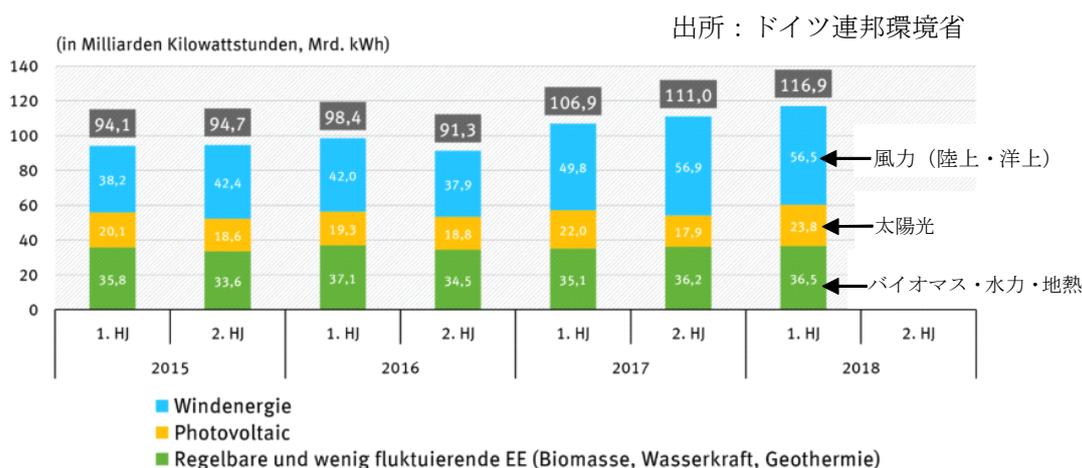
ドイツの2018年上半期の再生可能エネルギー発電量は前年同期の10%増加

ドイツ連邦環境省によると、ドイツの2018年前半（1月～6月）の再生可能エネルギーによる発電量が1170億 Kwh となり前年同期より100億 kWh 増加し比率では10%アップとなった。これは特に近年の目標をはるかに上回った風力発電の拡大によるもので、特に2018年1月の平均以上の風況によって1月だけで150億 Kwh を超える発電量の貢献が大きかった。

連邦政府の目的は、2030年までに再生可能エネルギーのシェアを65%に増やすことであるが、一方で、現在計画されている新しい風力発電の建設は、2015年から2017年の記録年と比較して減少傾向にあり、上半期に新しく設置された風力発電容量は約1633メガワットと前年同期の2880メガワットの約43%減と、2013年以来、最も少なくなった。過去4年間で、新しく設置された風力発電容量は、想定されていたよりもはるかに上回っていたが2017年と2018年に報告された風力発電の許認可が大幅に少なくなっている。

一方、太陽光発電部門では、新規設備はわずかに増加している。長年に亘って初めて、2,400～2,600メガワット/年の計画された目標を下回っている。しかし、2030年までに再生可能エネルギーによる発電シェアを65%の目標を達成するためには、少なくとも風力発電と太陽光発電を併せて4500メガワットを毎年建設する必要がある。

ドイツの再生可能エネルギー発電量の推移（2015年～2018年上期）



2013年の太陽光発電の落ち込みは、ドイツの太陽光発電業界に深刻な負の影響をもたらした。風力発電で同様の傾向にならないようにするために、設備のコスト高を避けなければならない。連邦政府としては、風力・太陽光発電の年間4,500メガワットの必要なレベルを下回らないように、特別な入札制度が必要であると報告されている。(了)